

## 第134回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和5年1月23日（月）13時30分～14時57分

### 2 審議事項

(1) 第4期中期目標・中期計画の変更について

理事（総務担当）から、資料2に基づき、部局の収容定員の変更に係る第4期中期目標・中期計画の変更案について説明があり、審議の結果、了承された。

(2) 役員賞与の業績評価の反映について

学長から、資料3に基づき、「常勤理事の期末特別手当の額の変更について」（学長裁定）の規定により、常勤理事ごとの業績に応じ、当該理事の令和4年12月期の期末特別手当の額を変更することについて説明があり、審議の結果、了承された。

### 3 報告事項

(1) 令和5年度 国立大学法人運営費交付金等予定額の概要及び本学の内示状況について

理事（財務・施設担当）から、資料4に基づき、令和5年度国立大学法人運営費交付金等予定額の概要及び本学関係の概算要求に対する内示状況について報告があり、概ね以下のような意見交換を行った。

（◎は学外委員、○は大学側の発言）

（主に「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に関して）

- ◎ 弱みを強くする方策について、継続して取り組んでいくことが重要である。
- 女性研究者の採用については、全学教授等選考委員会において、教授等の選考に非常に力を入れて女性比率をシビアに見ている。若手研究者については、若手を採用しなければその部局の採用枠が減っていく仕組みにしているが、もう少し執行部でコントロールすることが必要であると考えている。若手研究者は、年数が経過すれば若手研究者に区分できなくなるため、持続的に採用する仕組みを作らなければならないと考えている。  
卒業・修了者の就職・進学等の状況については、データの基礎となる学校基本調査の数値について、卒業した学生の状況を確認して反映させるよう徹底したところ、改善傾向にあるが、文部科学省は3か年平均の数値を指標として見ているため、指標が改善されるのはもう少し先になる。
- ◎ 全体的には問題ないを考える。細かい点にこだわりすぎずに強みの部分をしっかり伸ばしていくとよい。
- 本学も熊本大学のように半導体関係で業績をあげていきたいので、高専とも連携したいと考えている。
- ◎ 長崎にはソニーがあるため、佐世保高専も含めて上手に組むとよいのでは。総合大学の強みを活かして、大学が果たすべき役割をしっかりと果たしながら、プラネタリーヘルス学環を活かしつつ、特徴を出して進めればよいのではないか。
- 本学ではソニーセミコンダクタから設備を寄附していただき、工学部の学生だけではなく、経済学部や教育学部等の文系の学生も使用しているので、もっとアピールして大きくしていきたい。

(2) 業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定について

理事（財務・施設担当）から、資料5に基づき、国立大学法人法第34条の3における業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定基準「第4の第二号（委託運用）」の認定を受けたことについて報告があった後、令和5年度から委託運用を開始するために資金運用管理委員会を設置し、委託業務の内容検討及び企画競争による運用業務の委託先の選定を行っていく予定であることについて併せて報告があり、概ね以下のような意見交換を行った。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 海外の大学，特に私立大学の中には，寄附金を集めて財団のようなものをつくって非常に優秀な運用を行い，様々なものを賄っている大学が多いが，長崎大学は長期的な運用を考えているのか，短期的な運用を考えているのか。
- 基本的には長期運用で考えている。

(3) 2023年4月以降のウクライナ避難民学生への対応について

理事（教学担当）から，資料6に基づき，2022年6月から順次受入れを開始してきたウクライナ避難民学生に関する2023年4月以降の対応について報告があり，概ね以下のような意見交換を行った。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 戦争が長引く可能性があるが，長崎大学は先進的な，特徴的な取組としてウクライナ避難民学生への支援を行っていると考えている。学長が交代したから終わりということではなく，支援を続けてはどうか。
- 留学生ではなく避難民学生という位置付けであるため，支援の幅が狭くなってしまう。大学院生の講義は英語で受けられるためよいと思うが，学部生は，入試でもある程度の日本語能力が求められるため，正規の学生とするのは難しい。本学でも日本語教育を行っているが，留学生への日本語教育も行う必要があるため，ウクライナ避難民学生だけに特化したものを提供するのには難しい。
- ◎ 日本とウクライナの架け橋となるような若い人たちなので，文部科学省とも相談しながら支援の延長を前向きに検討してはどうか。
- 再検討したい。

(4) 令和3事業年度にかかるアニュアルレポートの作成について

(5) 令和5年度長崎大学経営協議会の日程について

(6) 最近の大学の主な動きについて（大学HP掲載トピックスのまとめ）

(4)～(6)の報告事項については，資料配付のみとした。

#### 4 その他

委員から，これまでの新型コロナウイルス感染症対応の総括及び今後の対策について質問があり，意見交換を行った。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 長崎大学は，新型コロナウイルス感染症対応においてリーダー的な役割を果たしてきた印象が強いが，今までの新型コロナウイルス感染症対策をどのように総括し，今後，新しい局面の中でどのように対策していくのか。
- 総括するのは難しいが，新型コロナウイルス感染症を100年に1度のパンデミック

と考え、これまで長崎大学が新型コロナウイルス感染症にどのように対応したのかを記録集として残すため、準備している。

(以上)